



串木野中学校教頭通信

Kyo to correspondence

～当たり前のことを当たり前～

第28号

令和5年10月26日(木)

いちき串木野市立串木野中学校教頭
文責 長岡

三つ心，六つ躰，九つ言葉，十二文，十五理で末決まる

上のタイトルは、教頭先生が夏季休業中に参加した研修で学んだ言葉の一つです。これは江戸時代の子供の教育の考え方です。

三歳までに「心」を！

『子は親の言う通りにならない。親のした通りになる』
愛情を持って接することと、見本を見せることが大切だということです。

六歳までに「躰」を！

『相手を思いやるやさしさ身体作法を何度も何度も出来るまで繰り返し行う』
何度も何度も繰り返しが重要な時期だということです。

九歳までに「言葉」を！

『挨拶は当然のこと，他人への口の利き方を教える』
九歳までに挨拶や言葉遣いを身に付けられないようでは大成しないということです。

十二歳までに「文」を！

『十二歳までに文字が自在にあやつれるよう』
親に何があっても直ぐに跡を継げるようにということです。

十五歳までに「理」を！

『森羅万象に対してその真実を見抜く力を養っておく』
子育ての最終段階！自然の原理が暗記ではなく実感として理解できるようにということです。

これが江戸時代の考え方です。

江戸時代は「男の子は15歳の元服で若衆髷から前髪を剃って大人の仲間入りをし、女の子は14歳前後から島田髷を結び、成人を祝った」ということなので、15歳が現代でいう成人です。

しかし、現代も15歳で義務教育が終わり社会に出る準備をするので基礎基本は同じだと感じます。

中学校を卒業するまでに「心」「躰」「言葉」「文」「理」を身に付け希望に満ちた「末（将来）」にしていきたいですね。



卒業に向けて 行事が1つずつ終わっていきます

2学期は早くも体育大会，合唱コンクールが終わりました。体育面，文化面と違う分野の行事でしたが，たくさん子どもたちが活躍している姿を見ることができました。

来週，3年生は串中では初試みの『バイキング給食』も実施されます。実力テスト真っ最中ですが楽しんでくださいね！次は駅伝大会（11/11）に向けてクラス一丸となって頑張っていきたいと思います！

10月名言

名言集①9

暗殺教室

「若さ」

のもつ最大の魅力は

「可能性」